

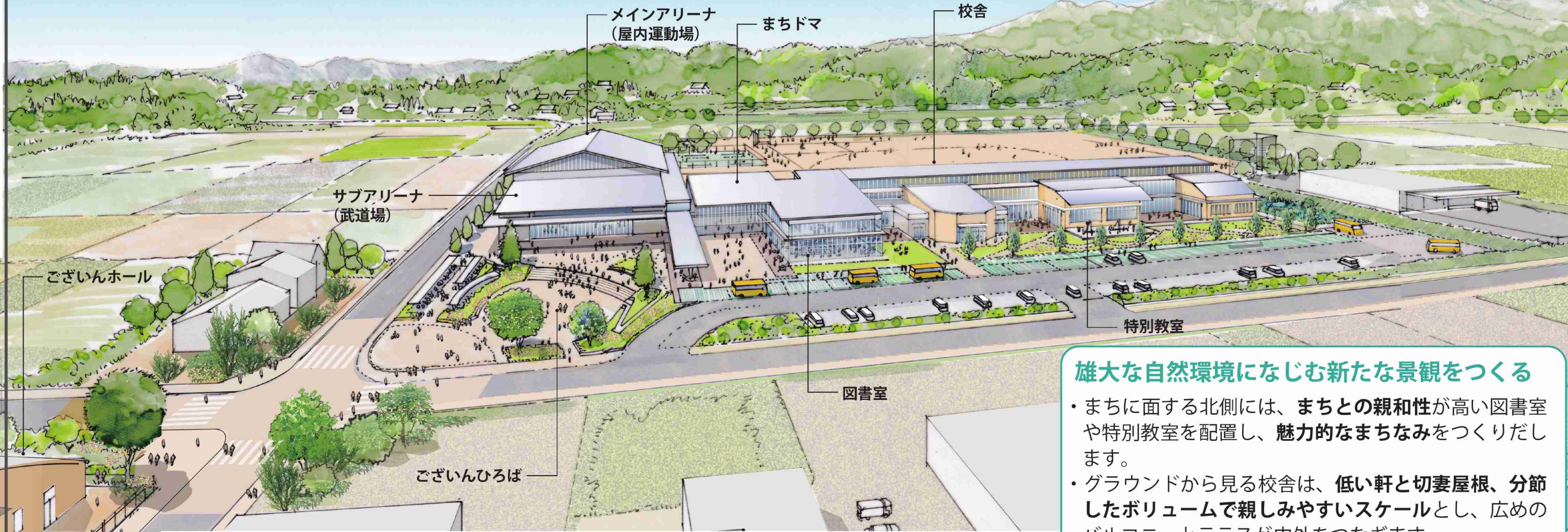


テーマ1：土地利用計画・配置計画に対する提案

# 蔵王町の未来を育む 学びと交流の中心としての学校づくり

町民の生活を支える役場、まちの文化の中心であるございんホールと連携する蔵王町のタウンセンターをつくり、日当たりや風通し、山並みの眺望など、蔵王町の豊かな自然に抱かれ、新しい学びの環境を整える土地利用計画とします

まちに開かれ風景とつながる統合中学校の様子（ございんホール側より見る）



## 蔵王町のタウンセンターの一翼を担う「ございんスクール」

### 【まちとのつながりと景観が敷地の宝】

新しい中学校の敷地は、まちとつながる位置にあり、蔵王町を象徴する農の風景と雄大な遠景に恵まれています。

### 【まちとのつながり=ございんホールとの連携】

- ・ ございんホールに面して設けたございんひろばに、開放施設である屋内運動場や図書・大階段等の学校機能が顔を出し、ひとつながりのまちなみをつくります。
- ・ 地域の人々が中学校と関わりを持ち、中学校でもございんホールや図書室、スタジオを利用するなど、町の施設の集約配置を最大限活用します。

### 【地域開放される屋内運動場の配置を比較検討】

屋内運動場はまちとのつながりや地域利用施設・避難所としての使いやすさを考慮し最適な配置とします。

土地利用計画の大きな要素である屋内運動場の配置比較検討

アリーナの配置検討	アリーナの 日当たり	グラウンドとの つながり	まちとの つながり	敷地周辺への ボリューム 配慮	災害時の 教育・避難所 機能の分離
<b>1. 校舎との一体感重視</b> グラウンド 校舎 アリーナ 駐車場	主採光面：北側採光	距離があり、一体感がない	生徒利用を重視	北側道路に対して圧迫感	明確な分離が困難
<b>2. ボリューム配慮</b> グラウンド 校舎 アリーナ 駐車場	主採光面：北側および南側採光	距離が短く、日常時の利便性◎	周辺施設との距離がある	ひろばから見て圧迫感を与えない	ございんホールとの連携困難
<b>採用3. まちとのつながり重視案</b> グラウンド 校舎 アリーナ ひろば 駐車場	南側含む4面からの採光	距離が短く、日常時、避難時の利便性◎	視認性◎ひろばとの一体的な利用	北側道路から大きくセットバック	分離が明確でございんホールとの連携も◎

### 【中学校とございんホールを安全に行き来できる動線計画】

- ・ スクールバス、職員・来客用駐車場、給食の搬出入など車両動線は全て敷地北側道路からの出入りに統一し、歩車分離を徹底した安全・安心な動線計画とします。
- ・ スクールバス停留所は一方通行の通り抜け方式とし、転回したりバックする必要がないことで安全性を高め、スムーズな乗降ができる計画とします。
- ・ 将来計画の給食センターは基本計画通りの配置とすることで、車両は北側道路から、という考え方を踏襲します。
- ・ 給食センターの用地計画においては、地盤レベルを工夫することにより、新中学校へ渡り廊下により2階の普通教室へ直接の搬出入が可能となる計画とします。



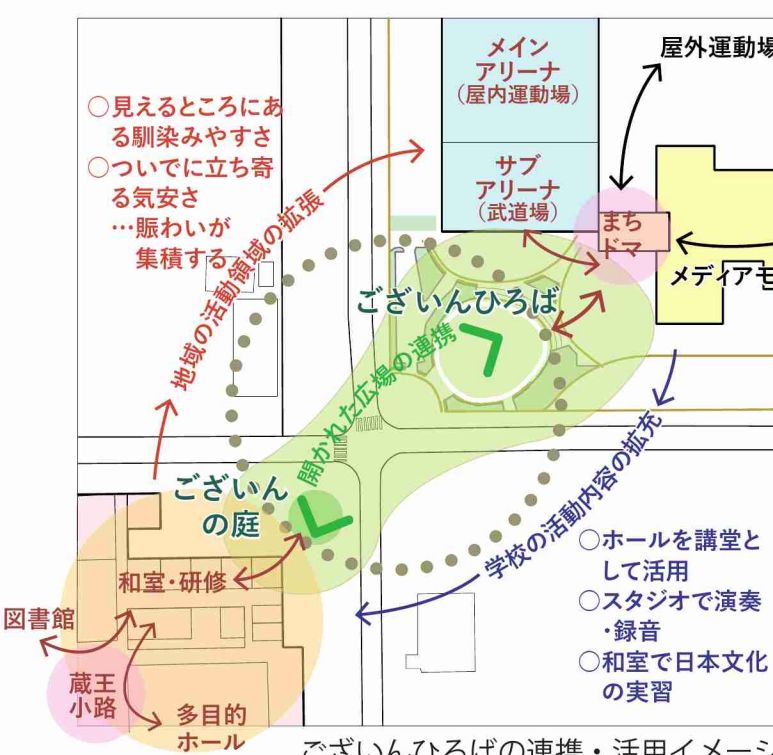
## 雄大な自然環境になじむ新たな景観をつくる

- ・ まちに面する北側には、まちとの親和性が高い図書室や特別教室を配置し、魅力的なまちなみをつくりだします。
- ・ グラウンドから見る校舎は、低い軒と切妻屋根、分節したボリュームで親しみやすいスケールとし、広めのバルコニーとテラスが内外をつなぎます。



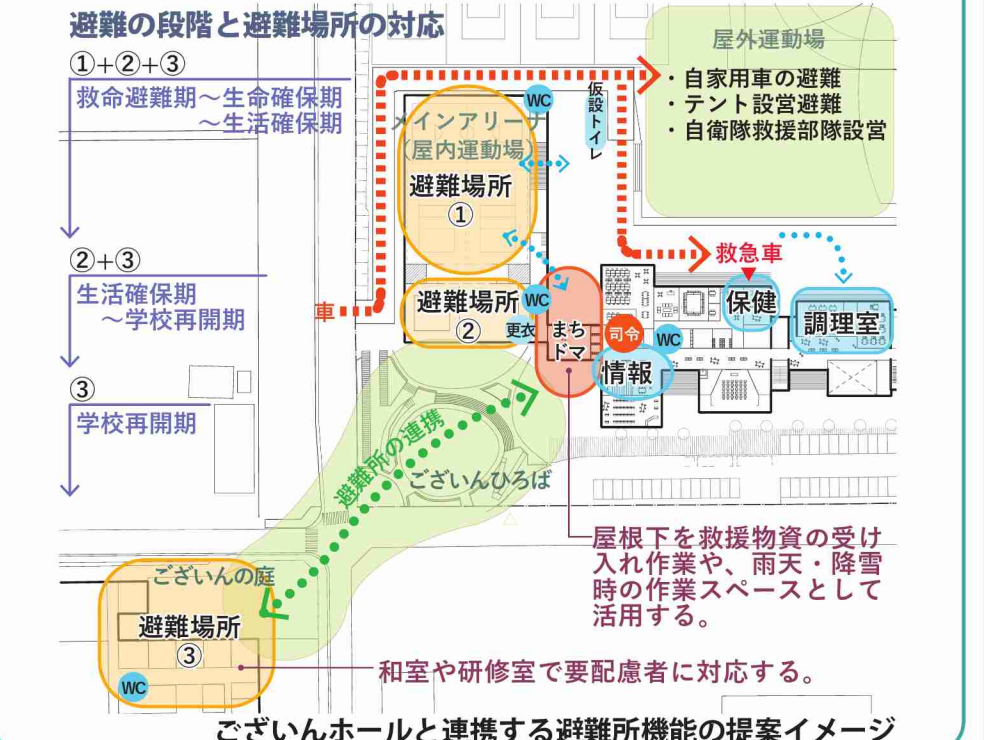
## 学校が町民の生活を支え、町のもつ教育資源が学びを豊かにする、共創を生む活動空間

- ・ 「ございんひろば」はございんホールと一体的な蔵王町の生涯学習・地域活動・教育の拠点として、地域住民と中学生が自然に行き来できるような空間とします。
- ・ 中学生による地域開放イベントや、朝市、フリーマーケットなどのイベントに活用でき、地域の集える場所をつくります。
- ・ ございんひろばに面し校舎と屋内運動場をつなぐ大屋根の半屋内空間「まちドマ」を整備し、地域と学校の結節点とします。
- ・ まちドマは階段状のホールや図書室などの内部と連携した多様な活動の場であり、地域開放の玄関やバス待ちのスペースにもなる、まちに開かれた交流の場です。



## ございんホールと学校全体が有機的に連携し避難所として機能することで安全・安心を提供

- ・ 避難所となるメインアリーナ（屋内運動場）は、災害時に駐車場となるグラウンドに面し、連携しやすい計画とします。
- ・ まちドマや大屋根空間は、避難者や物資受入、炊き出しスペースに利用でき、地域の安全・安心を確保します。
- ・ 屋内運動場には太陽熱空気集熱式パッシブソーラーシステムを設置し、太陽熱を利用した暖房によって冬季の避難時においても底冷えせず、地域開放においても使いやすい、ケガをしにくい運動施設をつくります。
- ・ 武道場はございんひろばに面し屋内運動場と隣接し、中規模の避難スペース、パンデミック時のソーシャルディスタンス確保にも対応できる計画とします。
- ・ 分散避難により感染症への対策、要配慮者への対応、学校活動の早期再開を可能とします。



テーマ2：教育方針をふまえた建築計画の提案

私たちは「ざおうグローバル5」を“景観や人との関わりなど蔵王町のすばらしい環境を通して、グローバルに活躍できる力を伸ばしつつ、将来の地域の担い手を育てる教育”ととらえ、町民意識が一体となって醸成される「みんなが通いたい学校」づくりを進めます

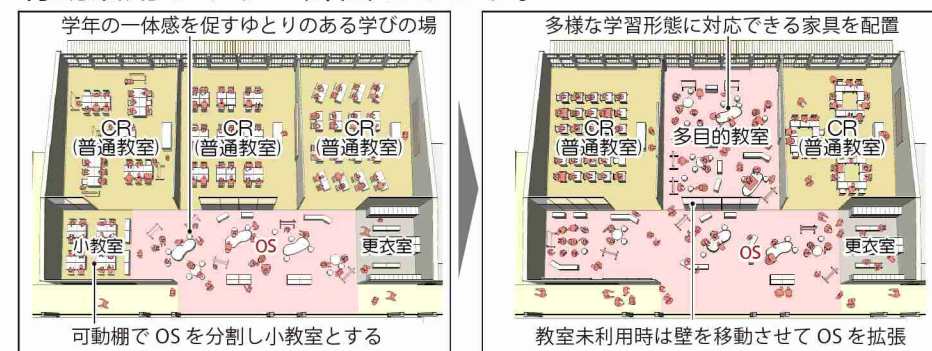
誰もが居場所を見つけられる多様で豊かな生活の場

- 校舎は2階建てとします。ヒューマンスケールで、上下階の行き来がしやすく、接地性が高い計画です。
- 1階はメディアモールで連携する活動的な「小さなまち」、2階は普通教室を学年ごとにまとめ落ち着いた「大きな家」とする明快な構成です。
- 各エリアを関連性のある機能をまとまりをもって配置した「 commons 」で構成することで、複数の諸室や場所を横断的に活用でき多様な学びを実現します。
- 遮音と温熱環境に配慮した吹抜で上下階をつなぎ、一体感があり連携がしやすい計画とします。

【2階】学年 commons

落ち着いた学習空間としての「大きな家」

- オープンスペース (OS) を中心にクラスルームが囲み、クラスを超えた学年の一体感をつくります。
- オープンスペースには教材や書籍、可動ホワイトボード、グループ机等を配置します。
- クラスルームはオープンスペースに面し、開口部を大きくすることで連携した学びを可能にします。
- 更衣室をロッカールームとして有効活用、収納を集約することで、教室内の有効面積を確保、壁面をホワイトボードや掲示壁として有効活用します。
- 開校時の3クラスでもオープンスペースが確保でき、3教室とも日当たりがよく、2クラスになっても多様な場を有効活用しやすい計画とします。



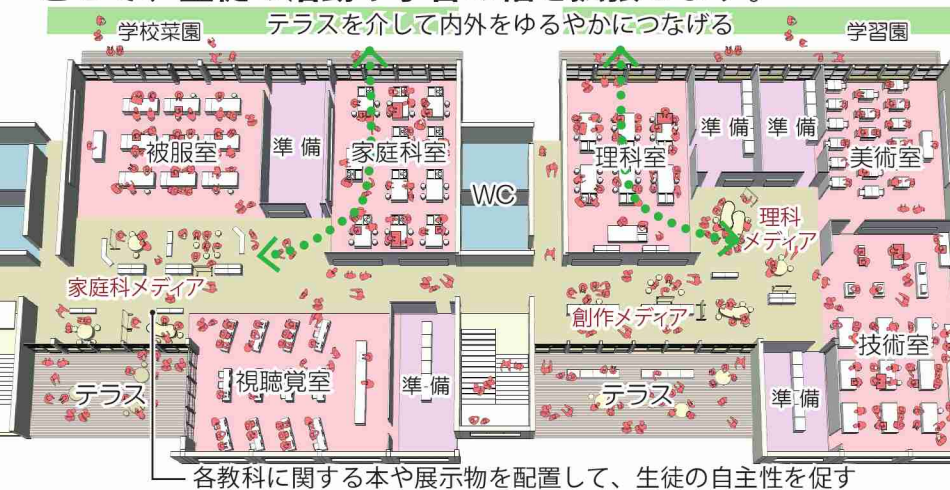
開校時：3クラスルーム

2クラスルーム

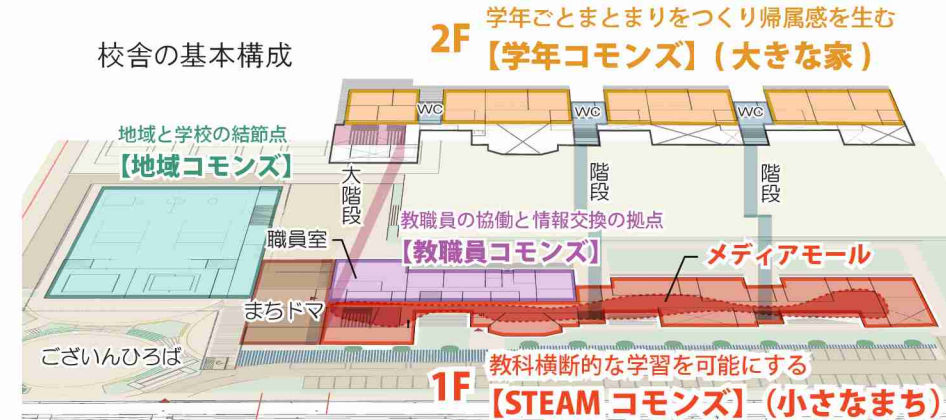
【1階】STEAM commons

活動的な学びの場「小さなまち」

- 図書室から特別教室まで連続するメディアモールを中心に、特別教室と教科メディアスペース、外部のテラスが連携する教科横断的な学びの場とします。
- 教科メディアスペースには図書や教材、展示などで教科の世界がつけられ、生徒を学びへと誘います。
- 多様な空間が連続する STEAM commons は「小さなまち」として、生徒の活動や学習の幅を拡張します。



各教科に関する本や展示物を配置して、生徒の自主性を促す



※commons: 関連性のある諸室・機能とオープンスペースを一体的に配置したまとまり。この構成により複数の諸室や場所を横断的に活用でき多様な学びを実現。  
 ※STEAM教育: Science, Technology, Engineering, Art, Mathematicsの5つの領域を分野横断しながら知る(探究)とつくる(創造)のサイクルを生み出す学び。



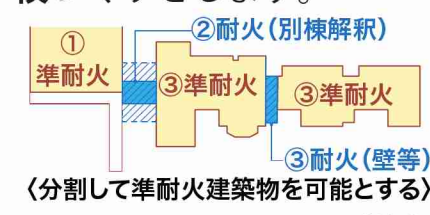
温かみと親しみを感じる木造の2階学年 commons



- 【サブアリーナ】** 武道場を多目的活用のために中規模のホールとして計画。ひろばへの舞台にもなる
- 【PTA】** 多目的な活用と交流のため、オープンな空間として昇降口付近に配置
- 【管理部門】** 校内の様子を把握しやすい学校全体の中央に配置。教員の公務と休息のバランスの取れた環境整備に配慮
- 【だんだんホール】** 昇降口から2階への主動線を兼ねた階段状のホール。集会や発表の拠点、且つ生徒会室や図書、まちドマと連携した多様な活動の場
- 【図書室】** STEAM commonsの起点であり、生徒が立ち寄りやすい位置でコミュニケーションの場にもなる。だんだんホールと連携した活動も可能
- 【音楽室】** 音の反響に配慮した室形状とするなど、高い音響性能を備えた小ホールとして計画
- 【美術・技術】** 工作機械を共用するなど、創作系の教科として連携利用のための配置としつらえとして計画

蔵王産木材を最大限活用した自慢の学習環境

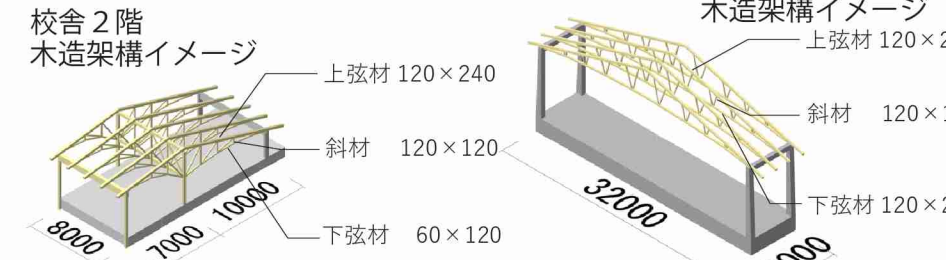
- 2階の内部空間および屋根を蔵王産木材による木造でつくり、内装を木質化した木の学校づくりをします。
- 1階および外壁は耐火構造のRC造とし、平面的に区画することで、床の遮音性と十分な火災安全性を確保します。
- 外壁耐火の「口準耐火建築物1号」とすることで、燃えしろ不要の「裸木造」として設計でき、木造らしさとコストバランスを両立する計画とします。



すべて RC 造	すべて木造	採用 RC 造・2階一部木造
同一工法により単純化が図れるが、木質化は仕上げに頼ることになる。	木の温かみのある校舎となるが、2階床の遮音性能の確保が難しい。	蔵王産材を用いた2階一部木造案。木の温かみと耐震・耐火・遮音性の両立。

【町有林の53年生のスギの価値を最大化】

- 53年生のスギからとれる製材は120x240程度であることから、この断面で可能な構造とすることで、集成材を使わずRC同等コストの木造校舎を実現します。
- 教室の8x10m、アリーナの30m超の屋根を、120x240x4m材で架ける木構造を採用します。
- 木造化に加え、板材を内装および雨のかからない外部に用い、構造材と板材を組み合わせた木取りで町の財産を最大限活用します。
- この計画は町有林10haから採れる材積で実現可能であり、スケジュール上も乾燥期間など十分に確保ができます。



蔵王の自然と共生する環境建築  
脱炭素化・ZEB化・LCC縮減を実現

- 軒で日射を制御し、夏は卓越風を活かした自然換気、冬は太陽熱空気集熱式パッシブソーラーシステムによる暖房+換気で、木造らしい穏やかな居心地の良い学習・生活環境を創出するとともに暖房コストの低減を図ります。
- 断熱気密を確保し高効率な設備を効果的に配置することで、ZEB Ready を達成し、将来を含めた創エネ設備の拡充によりZEBを目指すことができる計画とします。
- 2階の木造化により建物重量をRC3階建ての半分に抑え、基礎工事費用を低減し予算を上部躯体に有効活用します。
- 軒を張り出した木造屋根でRC造+アルミサッシの外壁を保護し外装にかかるメンテナンスコストを低減します。

